

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援

メッセージ

# 会報

NO. 20

2014.10.24発行

編集責任：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

### 第20回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

#### テーマ『ふるさと春日井の自然をまもる』

～みどりのまちづくりグループの自然保護活動～

10月5日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）2階第1集会室において第20回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『ふるさと春日井の自然をまもるーみどりのまちづくりグループの自然保護活動ー』と設定してフォーラムを行いました。

市民活動団体「みどりのまちづくりグループ」代表高橋 勇夫氏に、春日井市域の自然保護の活動報告と自然保護活動の苦勞、課題などを聞くことができました。

平成14年「かすがいパートナーシップ会議 みどりのまちづくりグループ」として発足して、今日まで13年の活動を実績をもっている同会の活動報告には、説得力があり、行動力とアイデアが満載の聴く者には眼から鱗が落ちるような、すばらしい内容でした。

参加者は、19名でした。（台風18号が迫っている悪天候の中にもかかわらず参加して下さった市民の皆様には感謝申し上げます。）



講演：高橋 勇夫氏（みどりのまちづくりグループ代表）

## 第20回「ふるさと春日井学」研究フォーラム 講演記録

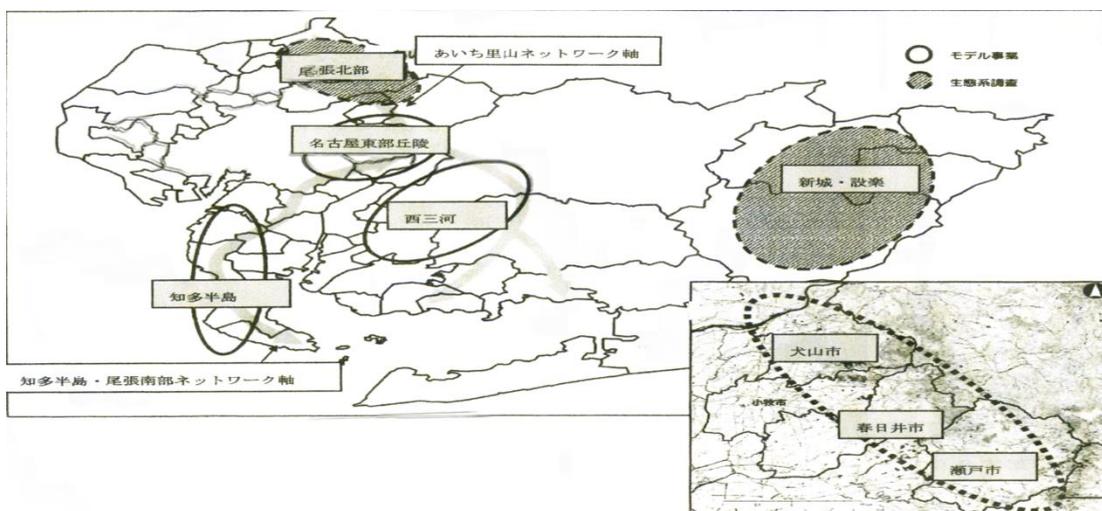
「みどりのまちづくり」と題して高橋勇夫氏(みどりのまちづくりグループ代表)に講演していただいた。「環境まちづくりの活動～森と緑を健康な状態で将来に引き継ぐ」がそのテーマで A4 版 12 頁の講演要旨とパンフレット「みどりの里の駅」(春日井市の東部丘陵のみろくの森から大谷川、内津川、庄内川を経て道風ゆかりの里まで 14km を、生態系豊かな緑の回廊で結ぶと言う環境まちづくりの活動)、「あいち 森と緑づくり事業」(山から街まで緑豊かな愛知をめざして～事業報告)、「あいち 森と緑づくり事業、事業報告」の 3 冊が配布された。それらをもとにスライドも映しながらのエネルギーな報告であった。

廻間に住み、11 年前から「緑の回廊をつくる」活動を続けられている。2000 (平成 12) 年 9 月 11 日夕から翌 12 日未明の豪雨の時には、大谷川やみろくの森を見に行った。山崩れは思ったよりひどかった。それでも「崩れたのはなぜか」と考えた。「山に木がなくなっていたのが原因」だった。特に木がなくなったのは明治の初期と戦中・戦後の時期だった。と語り始められた。

レポートの「I. はげ山と緑化の歴史」では、縄文時代から数千年にわたり、森林に頼って生活してきた。生活を支える資源のほとんどが森林からもたらされた。しかし、森林の荒廃は既に江戸時代に急速に進み、はげ山が広がったという。江戸幕府は山地の荒廃を危惧し、1666 年に「諸国山川掟」を発令し、草木の根株の採掘を禁じ、苗木の植栽を奨励したという。

近代に入っても山地の荒廃はとどまることなく、近代化のための資材として木材需要が増大し、昭和に入ると森林鉄道の普及もあり、奥山での大規模伐採も始まった。特に第二次大戦中と戦後の森林伐採で荒廃が広がったと「はげ山の出現」の歴史をまとめられ、「一度はげ山になると容易に緑の回復ができない」、その原因は、地盤の性質にあり、堆積層が岩盤まで固結していないためだと説明された。「II. はげ山が拡大するとどうなるか」では、江戸時代後期の尾張藩勘定奉行で治水家の水野千之右衛門 (尾張藩主徳川宗睦に治水工事の嘆願をし、新川の工事を実現させた人、4 年の短期で 1787 年竣工) の「山は山あって尊しとす」の文書を紹介された。その中に「春日井の山は山浅くして岩なし」「その上、松ばかり多く雑木茂らず」「雑木茂らすべきことに、よくよく心を尽くすべし」「雑木までなきときは、何を持って山の力となさんや」「しかれども、いま雑木を山谷に茂らすことは安からず」とある。愛知県はかつて、岡山・滋賀と共に「三大はげ山県」のひとつだったという。「III. はげ山の復旧」では、①現在の森林公園の中のいくつかの池や春日井市の築水池は明治 30 年以前の溪流に土堰堤を築いて、はげ山からの流出土砂を抑止し、堤内に貯水し、樋管で灌漑する工事方法をとったものだという。②砂防的林業と称する山腹工事は、はじめは冷評されたが、はげ山を回復させる治療法と評価を得た。クロマツやヒメヤシヤ

ブシの苗木を混植は、その後ヤマモモ、ヤマハンノキも用いた。明治29年に始まった。こうして昭和初期には、一応はげ山対策は成功。しかし、第二次大戦中や戦後に開墾、乱伐、盗伐などで流域のほとんどが裸地化した。昭和40年に入って森林法とにより、伐採や下草刈りが制限され、次第に植生が回復し、現在では、アカマツ、クロマツ、コナラ、アベマキ、モンゴリナラ、ソヨゴなど高木層を形成し自然林化が進んでいるという。「IV. はげ山とその復旧工事の写真」で、坂下の廻間「神屋穂洞」の明治36年の写真と明治38年の復旧工事後の写真、さらに昭和26年の同じ箇所の写真が投影された。廻間「高森」、廻間「馬不入」、明智の「頓明」、高蔵寺「外之原」、の昭和3、4年の荒廃状況の写真も投影された。「V. 今後の森林保全」では、わかってきた森林の持つ多面的機能のために、いっそう活力ある森林を求め、植樹や間伐などの森林保全が必要だとする。「VI. 生態系ネットワーク」では、2010（平成22）年にCOP10が名古屋で開催されるのを機に、愛知県独自の取り組み「愛知方式」で「人と自然が共生するあいち」を実現する活動が進められていることを紹介された。尾張北部（犬山・春日井・瀬戸）と新城・設楽を生態系調査区域に、名古屋東部丘陵と西三河、知多半島をモデル事業区域とし、それらを「あいち里山ネットワーク軸」〈図〉とする生態系ネットワークの形成だ。「VII. あいち森と緑づくり事業」では、平成21年4月から「あいち森と緑づくり税」を導入して、森林や里山林、都市の緑を整備・保全する取り組みを行っていることを紹介された。最後に、「みどりのまちづくりグループによる植樹と緑の保全」の活動を紹介された。みろくの森の倒壊豪雨崩落地にどんぐりの苗木を平成15年から18年の4年間で1,000本を子供たちと植樹をし、以来10年間現在まで年2回の下草刈りなど育樹を行ってきた。緑の森づくり植樹祭の活動、大谷川植樹、育樹活動、頓明どんぐり植樹と育樹、頓明公園アオダモ植樹と育樹活動、癒しの森づくり活動、シデコブシ保全、調査活動、無農薬・有機栽培稲作り、癒しの花壇活動、大谷川・内津川美化活動、竹林整備活動、上条河畔林「水辺のみどりの楽園」づくりと多くの活動実績を積み上げられている。本当に忙しい人だが、苦労をいとわず朗らかに語られた。豊かなふるさと再生と地球規模の活動が重なる貴重な取り組みを紹介



介していただいた。

### 〈図〉愛知里山ネットワーク軸

## 「みどりのまちづくりグループ」活動のあゆみ

**2002/平成14年** かがすいパートナーシップ会議 みどりのまちづくりグループ発足

**2003/平成15年** 「西宮市花と緑のまちづくり」見学 岩船神社トンボ池の周りに花壇づくり開始  
第1回みろくの森ドングリ植樹祭

**2004/平成16年** 「県有林野における活動に関する協定」締結 みろくの森にベンチ、テーブル設置  
大谷川水質検査開始 みろくの森除伐、間伐活動

**2005/平成17年** 大谷川第1回クリーン作戦 中部大学応用生物学科 谷山鉄郎教授顧問決定  
参加体験事業「間伐材ベンチづくり」

**2006/平成18年** 大谷川左岸庄内町河川敷竹藪伐採開始 庄内川上条河畔林整備  
嶺明公園(3000m)の管理受託 庄内川河畔林にて手作りの窯で竹炭焼  
三菱UFJ環境財団「癒しの森づくりの会」三年間支援決定 第1回アオダモ植樹祭

**2007/平成19年** みろくの森「森の恵み」体験事業実施 第1回大谷川源流左岸植樹祭  
「県有林野における活動に関する協定」締結 西尾町自生シデコブシ保全開始(中部大学協働)  
「水辺の自然がいっぱい庄内川上条河畔林で遊ぼう!」開催 あいち自然環境施設連絡協議会発足加入

**2008/平成20年** ジャンボエンチャョーの支援団体に選ばれる  
愛知県尾張建設事務所「コミニティーリバー推進事業の河川草刈り協定」締結、  
第1回嶺明どんぐり植樹祭開催

**2009/平成21年** 第1回みろくの森間伐参加体験開催 庄内川アダプトに加入(庄内川河川事務所)  
伊勢湾流域圏一斉モニタリング参加「大谷川、内津川、庄内川の水質検査」  
第1回間伐材活用まつり大谷川庄内町河川敷で行なう

**2010/平成22年** ケーブルTVで代表会の活動紹介 第1回みろくの森除伐体験開催  
COP10参加(白鳥会場) 癒しの森で間伐安全教育(尾張農林水産事務所)

**2011/平成23年** 第3回大谷川植樹開催(庄内町モミジ31本)  
「環境デーなごや2011」ワークショップ

**2012/平成24年** 第1回みどりの森づくり植樹祭開催  
坂下小「シイタケ菌打ち体験」指導 「環境デーなごや2012」ワークショップ  
第6回人と自然の共生国際フォーラムで間伐材活用ワークショップ

**2013/平成25年** 第2回みどりの森づくり植樹祭開催植樹3千本達成  
「アースデイいわきinなごや」(久屋大通公園)間伐材活用ワークショップ  
坂下小「シイタケ菌打ち体験」指導 サトラボ開園祭にて間伐材活用ワークショップ

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.midorinomachi.jimdo.com/>

**加入団体**

林野庁：中部森林管理局 「森林ボランティア団体」会員  
国土交通省：土岐川庄内川河川事務所 庄内川アダプト  
愛知県：県有林事務所「県有林における活動に関する協定書」協定1号  
あいち海上の森センター あいち自然環境団体・施設連絡協議会会員  
尾張建設事務所「愛知コミュニティリバー推進事業」春日井市協定1号  
中部地域づくり協会 伊勢湾流域圏再生ネットワーク会員  
春日井市：春日井市民活動支援センター会員 公園愛護団体会員

**協力企業・団体**

公益財団法人 三菱UFJ環境財団  
王子製紙株式会社 春日井工場  
医療法人 社団 喜峰会 東海記念病院  
株式会社 エンチャョー 高蔵寺店  
株式会社 ローソン 坂下店  
株式会社 春水園 造園  
有限会社 畠山商事 林業機械  
大和エネルギー(株) 廃棄物処理/再資源品製造

## 若いグループ会員大募集！

当グループの趣旨に賛同の若い人々を求めています。一緒に活動してみませんか。  
お気軽にお問い合わせください。

**みどりのまちづくりグループ**  
代表 高橋 勇夫  
〒487-0031 春日井市廻間町 681-112 TEL, FAX 0568-88-4167 E-mail takaisao@re.commufa.jp

「みどりのまちづくりグループ」活動のあゆみ

## OPINION – 「ふるさと意識」なくして地域の活性化なし –

### 『素朴な問い』に答えられる自然保護とは？

2012.9.6

春秋

「昔はよくカワウソをみかけたものだ。父親がこう語るのを耳にしたのは、40年以上も前のことだ。その日から、村の近くを流れる川のそばを通るたびに、それらしき姿を探すようになった。残念ながら、ついに会えなかった。それでも、あの川は豊かだったと思う。」

▼フナがいた。ウグイがいた。浅瀬の石に吸いつくようにしていたヤツメウナギは、子どもたちの格好の遊び相手だった。土手の上に並ぶ木々はカブトムシとクワガタムシの天国で、子どもたちには宝の山だった。ある日、その木々がすべて焼き払われた。やがて大々的な護岸工事が始まり、慣れ親しんだ川ではなくなった。

▼「大人たちは勝手だ」。子どもたちの多くがそう思った。「俺たちの意見も聞いてほしかった」と。いま振り返ってみれば、治水のためには必要だったのだろう、とは思っ。そう思うことで納得しようとするのだが、胸の痛みはおさまらない。あの生き物たちを根こそぎにするような乱暴な工事が本当に必要だったのか、と。

▼熊本県が球磨川の下流にある県営ダムの撤去に乗り出した。アユの生息で知られる清流を取り戻す狙いだそうだ。列島をコンクリートづけにしたあげく、今度はコンクリートをほがそうというわけか。そんな皮肉な感想も浮かんでくるが、清流が復活するのは歓迎だ。カワウソに会える可能性はもうないのだとしても。

日本経済新聞 (2012.9.6) コラム欄「春秋」より

上記の新聞記事に似たような出来事が身の回りでありました。

ある日、小学4年生の孫娘が血相を変えて私のところへ訴えてきました。「公園の桜の樹が伐られてなくなっているよ！夏に蝉がとまる場所が無くなってしまふよ。お花見も出来なくなってしまうよ。」というものでした。私は、不覚にも彼女に納得の行く説明はできませんでした。訴えは間違っていなかったからです。私たち大人は、このことはすでに町内の回覧板で承知していました。「老木のため朽ちていつ枝が落下するかもしれない」という理由でした。事故が生じてからでは後の祭りになりかねません。したがって、伐採はもっともな理由のように思えました。しかし、子供達から見れば「大人の勝手」と見えたことでしょう。大人は、事故が起こらないようにと転ばぬ先の杖を、と対策を取ったつもりで納得をしたのですが、純真な子供達の心を思わぬところで傷つけてしまっていたのでした。

子供の目線からは、「私たちの意見も聞いてほしかった」と孫娘も言いたかったのだろうと思いました。

小さな地域の公園に聳えていた桜の老木は私たちが子供の頃から遊び相手として生活の中にとけ込んで慣れ親しんできました。夏は蝉とり、春はお花見、樹の周りでの戯れ、のどかで、風情のある下町の風景がそこにはありました。今更ですが「どうしても伐採してしまわなければならなかったのだろうか」「何か保存する手だては無かったのだろうか」と

自問自答してしまいました。春日井市には「保存樹」制度があつて、地域の各地に樹齢を重ねた大木が多数保存され守られています。どのような基準なのかは一般の市民にはあまりよく知られていませんが、樹の周りに「保存樹」と書かれた「市章マーク」入りのプレートが誇らし気です。すばらしい制度です。自然を保護して行くとはどのようなことか、改めて考える余裕が地域社会にも必要であることを感じさせられる出来事でした。

(文責：河地 清)

次回 FORUM のお知らせ

第 23 回テーマ『御嶽講と覚明霊神』

日 時：平成 27 年 1 月 11 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

牛山町出身の僧覚明によって開基された御嶽山は山岳信仰の霊場として庶民の大切な精神的支えでした。それを経済的に支えていた御嶽講は、この地域に広範に普及していました。御嶽講がどのように地域社会に役割を果たしていたのか、その仕組と意義について・・・

発表者：櫻井 芳昭 氏（春日井市文化財保護審議委員）

※資料代 500 円（非会員のみ徴収）

第 24 回テーマ『小野道風春日井誕生説の検証』

日 時：平成 27 年 2 月 1 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

道風が春日井で誕生したとするならば、幼少の時代どこでどのように学んだのか、神童といわれた道風は、どのような環境の中で人格形成されていたのか・・・

発表者：塚田 忠雄 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム副会長）

※資料代 500 円（非会員のみ徴収）

〈事務局〉

「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長 河地 清

TEL/FAX 0568-82-5973 メール：kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検索 